



CQM(超短期経済予測モデル)

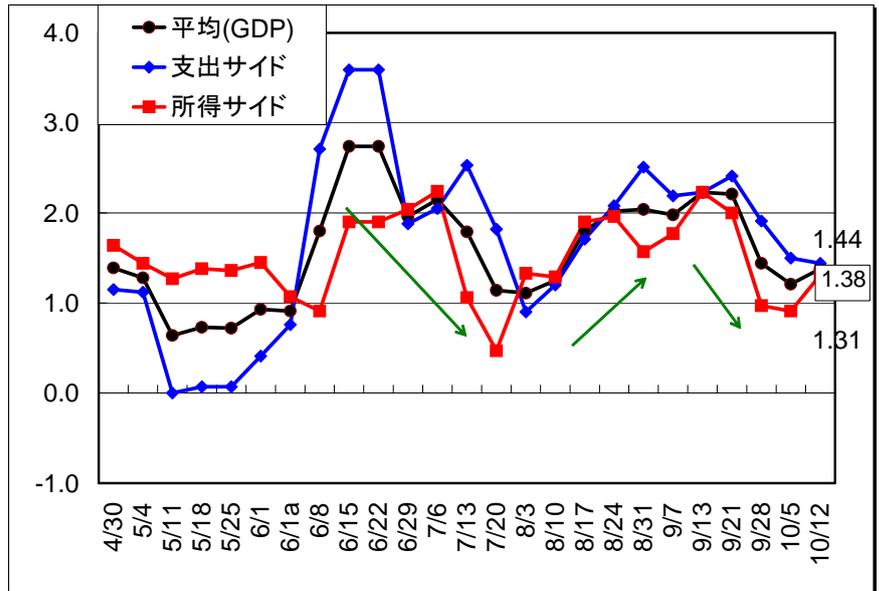
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年10月12日)

ポイント

- ▶9月の失業率の低下、10月に入っ
ての失業保険新規申請件数の大幅
な減少などから労働市場の改善が
期待されるものの、CQMは景気が9
月後半から落ちてきたことを示し
ている(グラフ)。
- ▶10月26日に発表される7-9月期
の実質GDP伸び率(速報値)は1.0%
~1.5%程度と4-6月期と同じ程度
の失望した経済成長率になろう。
- ▶11月6日の大統領選挙前に失望
的な経済成長率が発表されるなら
ば、オバマの再選は難しくなる。
- ▶更に、今のオバマはいろいろな面
でCarter元大統領と似ている。更
に悪いことはベンガジ米領事館の
テロ攻撃を隠していたことから、
Nixon元大統領との類似もある。
- ▶すなわち、失望的な経済停滞の
中、Carter+Nixon=Obamaの再選は
難しい。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<10月26日に失望的な経済成長が発表された後の、11月6日のCarter + Nixon = Obamaの再選は難しい>

10月12日のCQM予測は8月の小売在庫、貿易収支、9月の輸出入価格、生産者価格(PPI)を更新した。今週のCQMは7-9月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.50%から1.44%へわずかに下方修正し、所得サイドでは0.91%から1.31%へと上方修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.22%から1.38%へとわずかな上方修正となった(グラフ)。所得サイドから計算される実質GDPの上方修正は、GDP価格デフレーターが2.56%から2.16%へと下方に修正されたことによる。

グラフに見るように、CQMは9月後半から米景気がスローダウンしていることを示している。10月26日に発表される7-9月期の実質GDP伸び率(速報値)は1%~1.5%になる可能性が高い。すなわち、4-6月期と同じような失望的な経済成長率が11月6日の大統領選挙前に発表される可能性が高い。このような経済のスローダウンを打ち消すには、11月2日に発表される雇用統計において失業率が7.5%以下になるしかないのであろう。しかし、この可能性は非常に小さく、大統領選挙日に人々が感じている経済は、ジョブ創出、失業率の低下をもたらす経済状況とは程遠いということである。

更に、今のオバマはホワイトハウスでのマネジメント能力のなさ、イラン対応の失敗、石油価格高騰にみるエネルギー政策の失敗、高い失業率、我々は間違った方向に進んでいると国民が思うようになった世論を考えると、まさにObamaとCarterの類似点が多く浮かぶ。更にテロによるリビアのベンガジ領事館攻撃をイスラム教を侮辱したビデオのせいにする事実のCover-up。すなわち、NixonがWatergateで行ったと同じことをしている。結局、失望的な経済成長が続く中で、CarterとNixonの両者の欠陥を備えたObamaの再選の可能性は極めて低くなったと思われる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550